

地域人文化学研究所 定款~~（案）~~

第1章 総則

(名称)

第1条 この団体は、地域人文化学研究所（ちいきじんぶんかがくけんきゅうしょ）という。

(事務所)

第2条 この団体は、主たる事務所を愛知県豊田市足助町本町 15 番地に置く。

2 この団体は、前項のほか、従たる事務所を愛知県豊田市高上 2 丁目 1 番地 8 に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この団体は、地域文化及び地域資源の保存・活用、人材育成等に関する活動を通じて、次に掲げる事項を目的とする。

- (1) 地域活性化に係る問題の解決や改善
- (2) 地域の新たな価値や文化の創造と発信等
- (3) 地域内外のつながりや社会関係の構築等

(活動の種類)

第4条 この団体は、第 3 条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) まちづくりの推進を図る活動
 - (2) 観光の振興を図る活動
 - (3) 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
 - (4) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
 - (5) 科学技術の振興を図る活動
 - (6) 経済活動の活性化を図る活動
 - (7) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動
- (事業)

第5条 この団体は、第 3 条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
 - ① 地域文化及び地域資源の保存・活用を推進する事業
 - ② 地域の偉人等を顕彰する事業
 - ③ 郷土食の調査研究を通じて地域文化を紹介する事業
 - ④ 新たな文化とつながりを構築する情報発信等、交流事業
- (2) その他の事業
 - ① 不動産賃貸及び管理
 - ② 活動の啓もう普及を図るための物品の開発販売事業

- 2 前項第2号に掲げる事業は、同項第1号に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、収益を生じた場合は、同項第1号に掲げる事業に充てるものとする。

第3章 会員

(種別)

第6条 この団体の会員は、次の**4種**とし、運営会員をもって特定非営利活動促進法(以下「法」という。)上の社員とする。

- (1) **運営会員** この団体の目的に賛同して入会し、**活動を推進するとともに団体の運営を担う個人及び団体。総会への出席及び議決権並びに役員に選任される資格を持つ。**
- (2) **活動会員** **この団体の目的に賛同して入会し、活動を主体的に推進する個人及び団体。参加する活動に限り、活動の企画や運営に参画することができる。**
- (3) **登録会員** **この団体の目的に賛同し、各種活動に参加・協力するために会員登録する個人及び団体**
- (4) **賛助会員** **この団体の目的に賛同し、資金等の支援をするために会員登録する個人及び団体**

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、代表理事が別に定める入会申込書により、代表理事に申し込むものとし、代表理事は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 代表理事は、**申込者の**入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会費の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消失したとき
- (3) 継続して3年以上会費を滞納したとき
- (4) 除名されたとき

(退会)

第10条 会員は、代表理事が別に定める退会届を代表理事に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款に違反したとき

(2) この団体の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき
(抛出金品の不返還)

第12条 既納の入会金、会費及びその他の抛出金品は、返還しない。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この団体に次の役員を置く。

- (1) 理事 3名以上
- (2) 監事 1名以上

2 理事のうち、1人を代表理事、2人を副代表理事とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、**運営会員の内から**総会において選任する。

2 代表理事及び副代表理事は、理事の互選とする。

3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者又は3親等以内の親族が役員総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 代表理事は、この団体を代表し、その業務を総理する。

2 副代表理事は、代表理事を補佐し、代表理事に事故あるとき又は代表理事が欠けたときは、代表理事があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

4 監事は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
- (2) この団体の財産の状況を監査すること。
- (3) 前2号の規定による監査の結果、この団体の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
- (4) 前項の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。
- (5) 理事の業務執行の状況又はこの団体の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は元任者の任期の残存期間とする。

3 役員は前2項の規定に関わらず、後任者が選任されていない場合に限り、任期の末日後、最初の社員総会が終結するまで、その任期を伸長する。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1以上を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められたとき
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この団体に、事務局員その他の職員を置くことができる。

2 職員は、代表理事が任免する。

第5章 総会

(種別)

第21条 この団体の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、**運営**会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び収支予算書並びにその変更
- (5) 事業報告及び収支決算
- (6) 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金(その事業年度内の収入をもって償還する短期借入金を除く。第50条において同じ。)その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営
- (10) その他運営に関する重要事項

(開催)

第24条 通常総会は、毎事業年度1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事が必要と認め招集したとき
- (2) **運営**会員総数の2分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき
- (3) 第15条第4項第4号の規定により、監事から招集があったとき
(招集)

第25条 総会は、第24条第2項第3号の場合を除き、代表理事が招集する。

- 2 代表理事は、第24条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から10日以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した**運営**会員の中から選出する。

(定足数)

第27条 総会は、**運営**会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した**運営**会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第29条 各**運営**会員の表決権は、平等であるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため総会に出席できない**運営**会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の**運営**会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決**又は表決を委任した運営**会員は、第27条、第28条第2項、第30条第1項第2号及び第51条の適用については、総会に出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する**運営**会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) **運営**会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合は、その数を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名者2名以上が署名、

押印しなければならない。

- 3 前項までの規定にかかわらず、議長が適当と認めた場合には、議事録の記載項目及び議事録署名者の署名、押印を省略することができる。

第6章 理事会

(構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第32条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議するべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第33条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 代表理事が必要と認めたとき
- (2) 理事から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき
- (3) 第15条第4項第5号の規定により、監事から召集の請求があったとき

(招集)

第34条 理事会は、代表理事が招集する。

- 2 代表理事は、第33条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から10日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、代表理事がこれに当たる。

(議決)

第36条 理事会における決議事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

第37条 各理事の表決権は、平等とする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の理事を代理人として評決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決又は表決を委任した理事は、第38条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第38条 理事会の議決については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない

い。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 理事総数及び出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名者2名以上が署名、押印しなければならない。
- 3 前項までの規定にかかわらず、議長が適当と認めた場合には、議事録の記載項目及び議事録署名者の署名、押印を省略することができる。

第7章 資産及び会計

（資産の構成）

第39条 この団体の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収入
- (5) 事業に伴う収入
- (6) その他の収入

（資産の区分）

第40条 この団体の資産は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する資産及びその他の事業に関する資産の2種とする。

（資産の管理）

第41条 この団体の資産は、代表理事が管理し、その方法は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

（会計の原則）

第42条 この団体の会計は、特定非営利活動促進法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。ただし、当面は、理事会の了承を経て代表理事が別に定める方法で行うものとする。

（会計の区分）

第43条 この団体の会計は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する会計及びその他の事業に関する会計の2種とする。

（事業計画及び予算）

第44条 この団体の事業計画及びこれに伴う収支予算は、代表理事が作成し、総会の議決を経なければならない。

（暫定予算）

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、代表理事は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第46条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第47条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第48条 この団体の事業報告書、収支計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、代表理事が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第49条 この団体の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(臨機の措置)

第50条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第51条 この団体が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経なければならない。

(解散)

第52条 この団体は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第53条 この団体が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、解散時の総会におい

て決議した者に譲渡するものとする。

(合併)

第54条 この団体が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経なければならない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第55条 この団体の公告は、この団体の掲示場等に掲示する。

第10章 雑則

(細則)

第56条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、代表理事がこれを定める。

付則

- 1 この定款は、この団体の成立の日から施行する。
- 2 この団体の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

代表理事	天野博之
副代表理事	岩田敏也
副代表理事	野田清衛
理事	神谷修己
同	田口敏男
同	塚本隆典
監事	加納良宣
- 3 この団体の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から平成26年3月31日までとする。
- 4 この団体の設立当初の事業計画及び収支予算は、第44条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この団体の設立当初の事業年度は、第49条の規定にかかわらず、設立の日から平成26年3月31日までとする。
- 6 この団体の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1) 正会員	入会金 5,000円	年会費 5,000円
(2) 賛助会員	入会金 10,000円	年会費 10,000円/一口
(3) 特別会員	年会費 2,000円	

付則 平成28年度総会(平成28年4月23日 議題5)にて一部改正

- 1 この定款は、総会の決定日から施行する。

付則 平成30年度総会（平成30年4月15日 議題3）にて一部改正

1 この定款は、総会の決定日から施行する。

2 この団体の平成30年度の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。なお、平成29年度の正会員については、運営会員と同等とし、入会金は既に納入されたものとする。

(1) 運営会員 入会金 5,000円 年会費 5,000円

(2) 活動会員 入会金 なし 年会費 3,000円

(3) 登録会員 入会金 なし 年会費 1,000円

(4) 賛助会員 入会金 なし 年会費 10,000円／一口～